

### 摘果の注意点

開花期の遅れや幼果期が低温の場合、小玉果の生産割合が高くなることが予想されますので、摘果は例年より強く行い、早めに終わるように心掛け大玉生産に努めましょう。摘果が遅れたり過着果したりすると、果実の肥大と着色・食味を極端に悪くし、また、種子中のジベレリンが、花芽の分化や着生に抑制的に働いて、隔年結果の原因にもなります。

特に「ふじ」は、その傾向が強いので仕上げ摘果は、葉数や樹勢を考慮して基準よりやや強めに行い6月中には終わるようにしてください。

さらに、梅雨期は斑点落葉病や褐斑病の防除を徹底して葉の保護に努めるとともに、徒長枝や不要な枝を切り取り、日当たりと風通しを良好にして果実の肥大を促します。

